

■子供と一緒に子供の未来を考える、 そして作る

修正： 2021.02.01

投稿： 2021.02.01



●子供と一緒に子供の未来を考える、そして作る①

図書館をふらふら歩いていて目に入った書籍が、
「片づけ方」や「お金の貯め方」や「人の嫌い方」ですが、
どれも生きていく上で必要な知識で、こういうのを
学校の授業で取り上げればいいのに、と思ったものです。

//-----

「蛙の子は蛙」と言われております。同様に、

「東大の子は東大」と囁かれています。

親が優秀だと子供も優秀になりやすい、ということでしょうか。

親が優秀であれば、大抵、親は金持ちですから、
子供に、絵本や図鑑や教材や実験機材を、
積極的に買い与えることができます。

そうして子供は自然と図鑑を眺めるようになり、
「この魚すごーい (*'ω' *) 」とか、
「へー、この地方は温泉で有名なんだ (*'▽') 」とか、
いろいろと疑問が出てくることでしょう。

すると親もすかさず、
「なら水族館に行こうか (´ー´)ノ 」とか、
「なら旅行でもしようか (´▽´) 」とか、
すぐさま行動に移そうとします。

すると、実際に実物を目の当たりにするわけですから、
勉強に対するモチベーションが格段にアップします。ゆえに、
知識の定着率も以前とは比べ物にならないほど上昇することでしょう。
そしていつの間にか、**自ら進んで何かをする**ようになります。

以前、ニュースで、段ボールやペットボトルを使って
ものづくりに勤しむ小学生が紹介されていました。
重心のバランスを最適化したいと、

自ら方程式を組み立てて、試行錯誤していたそうです。

普通の人は、中学生になって、

「これ将来何の役に立つんだよ…」と漏らしながら、

いやいや方程式を勉強するものですが、

その小学生は、自らの趣味のために

積極的に方程式を使っていたわけです。そうして、

勉強に肯定的で積極的な子供が育っていくのです。

(続)

//=====//

●子供と一緒に子供の未来を考える、そして作る②

親が東大出身者なら子供も東大に合格しやすい、

しょせん世の中「蛙の子は蛙？」

「東大の子は東大？」という話でした。

子供は親の背中を見ながら育っていきます。

つまり、子供は親の言う通りに育つわけではなく、

育ちたい方向へ勝手に育っていくものです。よって、親としては、

子供がすすすすく育つよう、環境を整えることが大切です。

例えば、もしパソコンが近くにあれば、

それに興味を持った子供は、自発的に勉強し、

プログラムを作るようになるかもしれません。

Facebookの創業者マーク・ザッカーバーグがこの例です。

はたまた、家の隅に顕微鏡が置かれていれば、

植物や微生物を観察するようになるかもしれません。
何をやるにしてもモチベーションが先行するので、
その環境を整え、好奇心を掻き立てることが大切です。

新種の生物を発見したり絶滅危惧種を発見したりするなど、
たびたびニュースでも取り上げられるような高校生や大学生は、
日々日頃から図鑑を眺め、日々日頃から観察している人です。

どうしてそんな習慣が身に付いたのか？
それは親の影響と言っても過言ではないでしょう。

親の子供に対するアプローチやアドバイスが、
子供の人生に大きな影響を与えているのです。
子供が将来どうなるかは親のアドバイス一つと言えましょう。

もしあなたが親で、自分の子供から、
「スタンフォード大学に進学したい！」とか、
「戦闘機パイロットになりたい！」とか、
「貧困に喘ぐ世界の子供たちを救いたい」と、
将来を相談されたとき、親としてどうアドバイスしますか？

次回に続けます。

(続)

//=====//

●子供と一緒に子供の未来を考える、そして作る③

とある女子高生が、飢餓に苦しむ子供の姿をニュースで観て、
「貧困から救いたい」という想いを抱くようになりました。

もし自分の子供から、

「**貧困に苦しむ世界の子供たちを救いたい!**」

という想いを相談されれば、あなたが親であれば、

自分の子供にどのようなアドバイスをしますか?

「まあまあ、まずは英語を勉強して大学受験に備えて」とか、

「とりあえず目先の期末試験の勉強に集中したらどうだ」とか、

当たり障りのない回答をするかもしれませんが、

調べてみればより**具体的なことは分かるもので、**

本当に貧困に苦しむ子供たちを救いたいなら、

国連で働くという手があります。ただし、

いきなり入り込むのは難しいので、まずはアルバイトから。

すると、大学は近くにした方がいいので、

進学すべき大学も絞られてきます。

学力的に入学できそうな大学はどこで、

さらに何の学部で、と、ここまで分かれば、

今から何を勉強すればいいか、という計画も立てられます。

親として子供の進路には口うるさく言うてしまうものですが、

子供が本当に必要としているものは、**親の意見ではなく、**

自分の目標の達成に役立つ情報とそのための資金です。

親として子供にしっかり育ててほしいと言うのであれば、

子供のために徹底して**情報収集**し、

必要に応じて**投資**もしていかなければなりません。

親が情報収集している姿を見れば、

子供もその重要性を感じるどころですし、

投資したからこそ今があることが分かれば、

何かをするためには金が必要なことも理解できます。

子供はそうした親の背中を見て育っているわけで、

決して、親の言う通りに育つわけではありません。

蛙の子は蛙と言うのも、あながち間違いではないでしょう。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)